

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際学部
科目名 ※	数学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	集中・オンデマンド
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	－
学修分野			
授業目的 ※	意外と思うかもしれませんが、経済学はいわゆる「文系」でありながら実は数学を多用する学問です。この講義では中学・高校レベルの数学を簡単に復習し、就職活動で必須である数的処理や教養数学を身につけることを目指します。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	頭だけで納得するのではなく、実際に手を使って納得するようにしましょう。理解度を確認するために宿題を出します。定期試験対策に役立てて下さい。この科目は基本的にMoodleでおこないます。 ----- KCN:教員から履修者全体への掲示配信、教員と履修者間の個別連絡 Moodle:動画URLや配布資料の配布、小テスト、確認試験の実施		
評価方法 ※	確認試験(100%)		
評価基準	秀:行列計算とその応用問題に加えて、確率の応用問題が理解または説明できる。 優:行列計算とその応用問題に加えて、確率の応用問題のうち、1つがおおよそ理解または説明できる。 良:行列の簡単な計算と簡単な確率計算ができる。 可:行列の簡単な計算、確率の簡単な問題のうちおおよそ1単元が理解または説明できる。 不可:行列と確率が理解できない。		
テキスト	プリントを配布します。また、配布資料はダウンロードできます。欠席時や紛失時に利用してください。		
注意事項	この授業では1回(90分)の授業に対して、少なくとも90分の予習と90分の復習が必要となります。予習は、各授業の最後に次週の内容に関するキーワードを提示します。各自で調べるようにしてください。一方、復習では練習問題を準備します。知識を定着させるために解くようにしてください。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	統計学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	集中・オンデマンド
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	－
学修分野			
授業目的 ※	経済学では実データを取り扱います。株価や失業率、GDPなど、一度は耳にしたことがあると思います。この講義では少ないデータ(標本集団)から全体(母集団)を推測する方法(推定統計)について説明します。たとえば、皆さんの家に視聴率を計測する機械は恐らく無いと思います。にもかかわらず、視聴しているTV所有世帯が推定できるのはなぜでしょうか。レベルとしては、統計検定2級・3級程度の理解を目指します。統計学が経済学で役立つことは当然ですが、データの読み方やまとめ方は日常でも役立ちます。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	頭だけで納得するのではなく、実際に手を使って納得するようにしましょう。理解度を確認するために宿題を出します。定期試験対策に役立てて下さい。この科目は基本的にMoodleでおこないます。 ----- KCN:教員から履修者全体への掲示配信、教員と履修者間の個別連絡 Moodle:動画URLや配布資料の配布、小テスト、確認試験の実施		
評価方法 ※	確認試験(100%)		
評価基準	秀:検定と回帰分析の応用問題を十分理解しており、他人に説明できる。 優:検定または回帰分析の応用問題のうち、おおよそ1つを理解しており他人に説明できる。 良:検定と回帰分析の基礎知識を理解しており、他人に説明できる。 可:検定または回帰分析の基礎知識のうち、おおよそ1つを理解しており他人に説明できる。 不可:推測統計を理解できないため、他人に説明できない。		
テキスト	プリントを配布します。また、配布資料はダウンロードできます。欠席時や紛失時に利用してください。		
注意事項	この授業では1回(90分)の授業に対して、少なくとも90分の予習と90分の復習が必要となります。予習は、各授業の最後に次週の内容に関するキーワードを提示します。各自で調べるようにしてください。一方、復習では練習問題を準備します。知識を定着させるために解くようにしてください。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	図画工作	単位数 ※	2
開講学期※	通年	曜日・時限 ※	月・4
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	芸術室
学修分野			
授業目的 ※	子ども期の造形活動は、日常生活の様々な体験から、美しいものや心を動かされる出来事等を感じ取り、イメージや感性を働かせながら、表現することの喜びを味わうことを重視する。		
到達目標	保育の目標やねらい、内容、発達段階、等の保育に関する知識に基づき、造形表現における指導・方法・支援・製作等の保育技術、保育実技を学び、習得する。(総合的な子ども理解) また、保育者に求められるコミュニケーションスキルやチームワーク、リーダーシップ、課題解決力を身に付ける。(コミュニケーションや課題解決の能力) こうした授業や造形活動を通して、保育における社会的責任について考え、自己を管理し、生涯にわたって保育や造形活動について自ら考え、学び続ける素養を養う。(使命感)		
授業内容 授業形態 ※	作品製作(実技)と講義、ライティング(文章作成)、等を通じて、造形表現に関する基本的な知識や技術を習得する。事前学習では、毎回予習を行い、必要な教材(材料や資料等)を準備する。事後学習では、授業をふり返り、レポート等にまとめる。作品は画像データに記録・提出する。		
評価方法 ※	「提出物(作品、レポート類、等)100%」を基本とする。本授業では「作品製作(実技)の過程」等を重視し、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	特になし。		
注意事項	[特記事項] 「教材・画材」と「スマートフォン等のデジタル機器」が、毎回の授業で必要になる。 (1)「教材・画材」 原則として、授業での説明後、受講者が別途購入する。 ※必要に応じて、授業担当者と個々に相談する。 (例)・F4スケッチブック(袋付き。着彩可能な画用紙)・A4クリアフォルダ・水彩絵具(8色セット)・パレット(15色)・水彩用丸筆 4号(細)・水彩用丸筆 6号(太)・クレヨン(12色セット)・はさみ・カッター・でんぷんのり・接着剤(ボンドタッチ)・セロテープ・カラーサインペン(水性、油性)・ホッチキス・色鉛筆(12色セット) (2)「スマートフォン等のデジタル機器」 毎回の授業時に、各自の完成作品を各自で記録するために使用する。その他、授業資料の閲覧や、課題の提出等にも利用する。 (3)受講者は、毎回の授業の作品製作で、必要な教材(素材、用具、資料、等)を事前に準備する。 (例)・工作に必要な空き箱、等。		
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	体育	単位数 ※	2
開講学期※	通年	曜日・時限 ※	木・3
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	体育館
学修分野			
授業目的 ※	身体の発育、発達への視点から幼児期／児童期の子どもの遊び・活動を分析し、環境をつくることができるようになる。		
到達目標	「やってみる」－「ひろげる」－「ふかめる」実践を通して、「個々の遊びから集団の活動」、「伝承遊びからスポーツ／ニュースポーツ」といった枠組みに沿って活動を展開していく。 また、運動要素としての「支える、移動する（這うから走る）」「転ぶ、回転する」、「掴む、投げる」といった動きの重要性を理解し、基本的な動作を引き出す為のモノ（おもちゃ、用具）を工夫し、遊びの場（ゲーム）をつくる力を身につけることで、（子ども）の発達の連続性及び教育と保育の関連性への理解を深める。同時に、各自が様々な身体運動・遊びに「挑戦する」ことにより、（主体的かつ協働的なコミュニケーションや課題解決の能力を身につける）ことを目指す。また、「出来ること」、「出来ないこと」への視点から「幼児期の体育」についての理解を深め、（総合的な子ども理解ができる）ようになることを目標とする。		
授業内容 授業形態 ※	準備運動（鬼遊び）は各グループで、テーマに沿って準備、実施していく。 各時のテーマに沿った、補助教材・用具づくりのための材料を事前に準備する（廃材の収集等）。運動の実技を通して「できること」、「できないこと」を認識し、課題に挑戦していく。その際に、動きのモデルの提示や支援などのグループでの課題学習をおこなっていく。 最終的には、「遊び」のプログラム作成を行い、実践し、運動への関わり方へのフィードバックをおこなう。		
評価方法 ※	課題達成（個、集団の運動技能）30%、実技試験（指導実践）30%、指導課題40%		
評価基準			
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項